

提言

二院制は我が国の民主主義の原点 国民の声を反映させる大原則を遵守せよ

参議院議員選挙が終わり、私の期待とは違う判断が出ました。自由民主党には深く反省して欲しいと思います。自民党は勝ったのではなく、単に野党がバラバラだったからあのような結果が生まれたのです。どうかその数字に胡坐をかくことなく、国民のために何ができるのかという視点で国政にあたっていただきたいと思います。

8月から、わが友人の山東昭子氏が参議院議員の議長となりました。日本の国政史上、女性の議長は第1号が土井たか子衆議院議長、次いで扇千景参議院議長、そして3人目の女性議長が誕生したことになります。山東昭子氏は50年にも亘る友人で、さまざまな情報交換をしております。当選8回、40年以上にわたる議員生活を経て参議院議員議長に就任しました。その経験を生かして国会運営にあたっていただきたいと思います。

私は常々申し上げているのですが、参議院は衆議院のカーボンコピーであってはなりません。参議院というのは、かつて貴族院と呼ばれたように伯爵、男爵といった貴族や高額所得者がメンバーとなった品格の高い組織でした。現代の日本にそのようなシステムはありませんが、衆議院の決議をただそのまま通すのではなく、国民のためにきちんと精査し、最終決定をする機能が求められているのです。

自民党が衆議院で安定多数の283議席（令和元年5月8日現在）を持っていることを傘に参議院を軽視することがあってはなりません。かつて岸信介、池田勇人、佐藤栄作、田中角栄など歴代の総理は必ず参議院を「重石」にしてきました。衆議院で決め、参議院で可決したことは自信を持って法案とする。でも参議院を通らない審議については持ち越しにすべきなのです。しかしながら歴代の参議院議員議長が次々と強行採決を繰り返してきたのはご存知の通りです。野党が弱いからといって強行採決をするのは論外です。野党の声は国民の声なのです。そうした国民の声に耳を貸さない状況が30年以上も続き、造船疑獄やリクルート事件、ロッキード事件など、疑惑の温床となってきたのです。

もはや国民の政治に対する期待は薄らいでしまっています。戦後75年、日本が真の意味での民主主義を標榜するのなら、国会の2院政をきちんと機能させなければならぬのです。

まずきちんと品格人格を見極めて、候補者を選ぶこと。そして二院政をきちんと機能させることが肝心なのです。

次に来る衆議院議員選挙では、国民が安心して選べる候補を擁立することを望みます。

本誌主幹 大中 吉一